

## 平成 18 年度 第 1 回 E x T E N D 2005 基盤的研究企画評価検討会 議事要旨

日時：平成 18 年 5 月 19 日（金） 10:30～12:55

場所：環境省第 1 会議室

III 出席委員：佐藤洋（座長）、遠山千春、鳥居圭市、永沼章、萩野哲、益永茂樹  
オブザーバー（代表研究者）：松田勝（長濱嘉孝の代理）、木下政人、青山博昭、中西剛、  
太田茂、鯉淵典之、鳥羽陽（早川和一の代理）

（敬称略）

事務局：上家環境安全課長他

欠席委員：小山次朗、渡邊知保

議題：

1. 平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究について
2. ExTEND2005 疫学研究手法研究について
3. その他

議事要旨

（1）平成 18 年 ExTEND2005 における基盤的研究の計画について、研究担当者から説明及び質疑応答が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・課題 1 「メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究」：暴露面でのアプローチが明確になり、本課題に見合った内容になってきている。その他、メダカ脳性分化の哺乳類との差異、マイクロアレイ後の実験展開に関して質問があった。
- ・課題 2 「遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質の影響評価と作用機構の解明」：標題と内容とにかなりの乖離を感じる。「自己浄化」の用語は意味が不明である。性行動試験では点灯タイミングに実験検討の余地がある。
- ・課題 3 「哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解明と新たな内分泌かく乱メカニズムの検証」：ケルセン影響と多型系統の関連の明確性、ファンクショナルクローニングの技法、ホモジーニアスな系で毒性試験を行う問題点、期待される研究成果の応用性について質問があった。
- ・課題 4 「胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function と性分化の可塑性」：期待される研究成果のヒト影響への外挿性、胎児の子宮内位置影響へのアプローチに関して質問があった。
- ・課題 5 「胎仔期、新生仔期の代謝機能と内分泌かく乱作用発現」：投与方法として新生児への直接皮下投与以外に子宮内投与も考えられる。被験物質として PCB を検討する意義は高い。テーマがやや分散気味なので進捗に応じて焦点を絞った方がよい。
- ・課題 6 「核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構」：コプラナ、オルソ、水酸化など個別の PCB に代表的な異性体を選んで実施すれば、作

用機構を解釈する上で意義が高い。

- ・課題7「燃烧排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の評価」：代謝生成物を考慮した上で水酸化体を用いた実験を組むとよい。「活性等価係数」という用語は本課題では不適切である。哺乳類培養細胞試験をせずに酵母 two-hybrid と哺乳類 in vivo 試験を実施しようとしている点に無理を感じる。限られた予算内で実施するには、やや盛りだくさん過ぎる。

(2) ExTEND2005 疫学研究手法研究について進捗、検討状況について、事務局から説明が行われた。

**【委員からの主な意見】**

- ・疫学以外の分野についても随時新たな情報収集、文献調査を実施する体制が必要である。

(3) その他

- ・研究計画書及び研究計画の説明に対する委員からの具体的意見を5月24まで事務局宛に募り、5月29日までに代表研究者との調整、研究計画の確定、座長による確認を行い、5月31日には研究開始予定とした。
- ・次回検討会は、今年度研究成果の検討ため年度末開催予定とした。
- ・本検討会での決定事項については、6月末開催の平成18年度第1回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会に報告することとした。

以上